

どうも、ネズミ班班長の加藤…ではなく、荒井です。今回は、ネズミ班班長の加藤の代わりにネズミの事について書いていこうと思います。

と、言っても去年の文化祭が終わってからのネズミ関係の活動なんて、そんなにやったことがあるわけでもなく、去年の文化祭が終わって数ヶ月で

展示していた動物界脊椎動物門哺乳綱ネズミ目(齧歯目)ネズミ科ハツカネズミ属のハツカネズミが死亡し、部室にある冷凍庫送りになったのが一つ目のネズミ関係の事ですかね。

二つ目は、ネズミがいなくなってしまったので、かねてから飼いたいと思っていた動物界脊椎動物門哺乳綱ネズミ目(齧歯目)キヌゲネズミ科ヒメキヌゲネズミ属のヒメキヌゲネズミ(ジャンガリアンハムスター)を飼うことにしたということです。

五月二十九日に学校近くのペットショップに行き、かわいいジャンガリアンハムスターを二匹買いました。

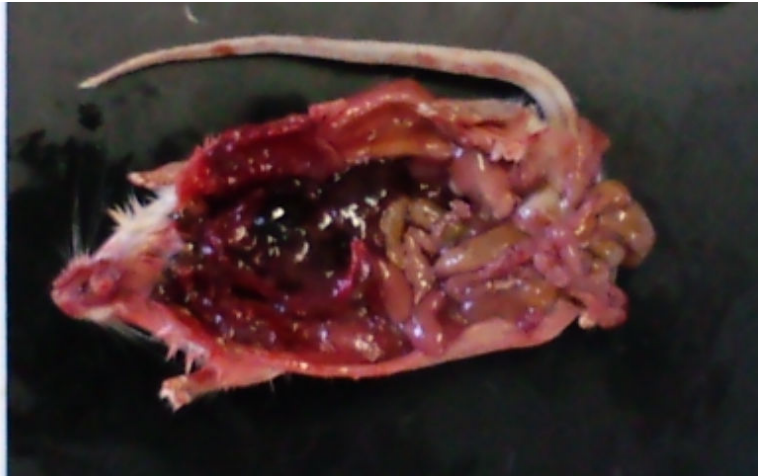


夏休みは、学校にあまり行かないのでハムスターが餓死したり、暑くて死ぬのを防ぐため、班長の加藤と一匹ずつ家に持って帰って飼っていました。

今も、ジャンガリアンハムスター二匹とも元気に毎日ご飯を食べて、回りで運動しています。

三つ目は、夏休み中の八月五日に、冷凍庫に入っていたハツカネズミの死体の一つを解剖したということです。

ハツカネズミの死体を冷凍庫から出し、凍っているのを外に出しておき、自然解凍して柔らかくなってからメスやハサミを使って、ネズミの腹を肛門のところから裂いていきました。ネズミはしんでから半年以上たっていて、ずっと冷凍庫に入れられて凍っていたはずなのに異臭を発していたが、我慢できないほどではなかったのでそのまま首のところまで裂いて、内臓を取り出しました。



↑ネズミ解剖中

ネズミについての活動はこれくらいしかないの以后はうんちくを少し書こうと思います。

哺乳類目で一番数が多いのはネズミ目で、約千九百種もいる。ちなみに二

番目は、^{こうもり}蝙蝠目で約千種。

哺乳類の祖先は、中生代三疊紀後期からジュラ紀前期にかけて生息してい

た動物界脊椎動物門哺乳形類モルガヌコドン目メガゾストロドン科メガゾストロドン属メガゾストロドンだと考えられている。



以上で、終わりです。ここまで読んでくださりありがとうございます。荒井でした。

朱雀

コウノトリについて

鳥班班長 鈴木康嵩

コウノトリという鳥をご存じでしょうか。名前は聞いたことがあるけれど、どんな鳥かはご存じない方もいらっしゃるかと思います。そこで、今年の朱雀ではコウノトリについて書いていきます。

(イ) コウノトリについて

- コウノトリ目コウノトリ科
- 学名 キコイナ ボイキアナ(*Ciconia boyciana*)
- 翼開長 約 200cm
- 分布 東アジア

(ロ) コウノトリの特徴

- クラッタリングについて

コウノトリの成鳥は鳴管が発達していないため鳴けません。そのため、嘴をカスターネットのようにならすことで仲間への合図や、ディスプレイをします。

(ハ) ヨーロッパのコウノトリ

- コウノトリとシュバシコウ

赤ん坊はコウノトリが運んでくるというヨーロッパの言い伝えがあります。しかし上記のようにコウノトリは東アジアにしか生息していません。これはどういうことでしょうか。実は、ヨーロッパの言い伝えではコウノトリではなく同じコウノトリ科のシュバシコウが赤ん坊を運ぶのです。しかし日本に伝えられたときにコウノトリとなってしまったそうです。



左がコウノトリ 右がシュバシコウ

(二)その他

● ツルとの違い

花札の「松に鶴」という札をご存知でしょうか。この札はツルが松の木の上にとまっている絵ですが、ツルは木の上にとまれません。これはツルとコウノトリが混同されたためと思われます。

また、「ツルの恩返し」ではツルが機織をしますがこれもツルではなくコウノトリがモデルであると思われます。コウノトリのクラッタリングが機織の音にているために、モデルとされたようです。事実、動物園のコウノトリに機織の音を聞かせるとクラッタリングをし始めたそうです。

(ホ)参考文献

兵庫県立コウノトリの郷公園ホームページ

<http://www.stork.u-hyogo.ac.jp/index.php>

海水魚班のムダ知識

文責：加藤裕也

部誌を書くのは高校生になってからだと勝手に考えていましたが、海水魚班班長となったことで今年から部誌を書くこととなりました。日本の水族館はとても多く、世界にある水族館の五分の一ほどです。しかし、どの水族館も綺麗な海水魚はたくさんいても食卓に並ぶような地味な魚はあまりいません。そんな地味な魚を紹介していきたいと思います。

スズキ

硬骨魚類条鰭亜綱新鰭区刺

鰭上目スズキ系スズキ目ス

ズキ亜目スズキ科スズキ属

学名 *Lateolabrax*

japonicus (Cuvier)

英名 Japanese seaperch

形態 約80cm 細長く全体的に銀色

生息域 海水・汽水 日本各地

生態 産卵期は秋～冬 一尾の産卵数は20万粒前後 甲殻類を餌とする。



スズキは出世魚と呼ばれ成長するにつれて名前が変わっていきます。

幼魚「コッパ」→15cm以下「ハクラ」→1歳魚・15cm～18cm「セイゴ」、「デキ」

→2歳～3歳・35cm前後「ハネ」、「フッコ」、「マタカ」、「マダカ」→4歳魚以上・

60cm以上「スズキ」

ここで一つスズキが登場した昔話をしようと思います。

平家物語の舞台となっている平安後期は熊野信仰の全盛時代。後白河上皇をはじめ貴族たちは競って熊野（紀伊半島南部）にお参りに行きました。その道中には"精進潔斎"（身を清める）のため魚・肉・にんにくなどを断たなければなりません。

平清盛がまだ安岐守（あきのかみ）だった頃、熊野詣のために伊勢から船を出しました。すると突然、大きなスズキが飛び込んできたのです。同乗していた先輩の修験者は意外にも「これは熊野権現の下さった御利益です。どうぞ召し上がってください。」とすすめます。昔、周の武王の船に白魚が飛び込んで来たのが武運を招く吉兆とされている事を知っていたからです。

清盛は精進潔斎の最中ですが、「熊野権現の御利益を受ける」と決意してこのスズキを自ら調理して食べ、家臣たちにもふるまいました。禁を破ったにもかかわらず、その後の清盛には幸運が続き、平家一門の繁栄を招きます。そこで人々は「平家は熊野権現の力を得ている」と噂するようになりました。

ブリ

硬骨魚類条鰭亜綱新鰭区刺鰭上目スズキ系スズキ目スズキ亜目アジ科ブリ属

学名 *Seriola quinqueradiata* Temminck and Schlegel

英名 Japanese amberjack

形態 1 mを超える 紡錘形 ヒラマサと似ている

生息域 琉球列島を除く日本各地。朝鮮半島

生態 稚魚期は甲殻類、その後はイワシ類、アジ類、イカ類などを餌とする。水温の上昇とともに北に回遊、水温が下がってくると南下する。



ブリもスズキと同様に出世魚と呼ばれ成長すると名前が変わります。

- 関東 - モジャコ(稚魚)→ワカシ(35cm 以下)→イナダ(35-60cm)→ワラサ(60-80cm)→ブリ(80cm 以上)
- 北陸 - コゾクラ、コズクラ、ツバイソ(35cm 以下)→フクラギ(35-60cm)→ガンド、ガンドブリ(60-80cm)
- 関西 - モジャコ(稚魚)→ワカナ(兵庫県瀬戸内海側)→ツバス、ヤズ(40cm 以下)→ハマチ(40-60cm)→メジロ(60-80cm)→ブリ(80cm 以上)
- 四国 - モジャコ→ワカナゴ→ハマチ→ブリ→オオイナ→スズイナ

流通過程では、大きさに関わらず養殖ものをハマチ(鰯)、天然ものをブリと呼んで区別する場合もある。

最後に

綺麗な海水魚はとても魅力的です。また、地味に見える魚は違った美しさを持っています。

水族館や海水魚店などで地味な魚がいたら素通りせずにじっくりと観察してみてください。

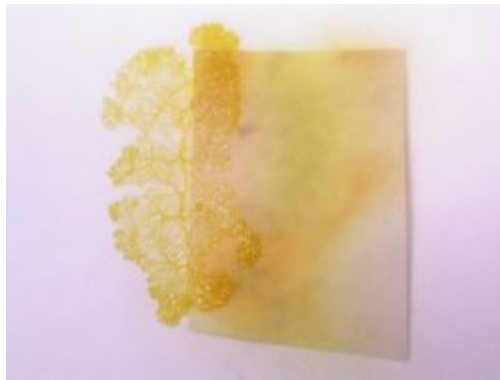
きっと、いままで気づかなかったことが見えてくると思います。

変形菌

ーなんでもありの変ないきものー

文責：溝口由丸

菌、というとあなたはどのようなものを思い浮かべるだろうか。湿った所に生えているキノコやカビの仲間だとか、或いは生き物の中に寄生する大腸菌のような細菌、といったものかもしれない。しかし世の中には、時には地を這いまわり餌を求め、時には地面に根を張って耐え忍び、また時には空をも飛ぶ、そんなアグレッシブな菌が存在する。それが、ここで紹介する変形菌という生き物だ。



・そもそも分類は？

姿形からよくカビの仲間と混同されてしまうが、変形菌は変形菌類に属する生物の総称で、カビとは全く別物だ。しいていうと性質上は細菌の仲間に近いが、「細菌類」と同じ大きさの枠で「変形菌類」というカテゴリがあるので、これはもう何の親戚というよりは「変形菌という、そういう生き物」といった方がいいのかもしれない。

・で、どこが変わってるの？

変形菌の最大の特徴は、環境にあわせて自身の形態を「変形」させる所にある。名前の通りだ。

具体化には、以下の5つの形態を持つ。

★変形体

アメーバ上の形をしている。活動する環境が整っている時にこの状態となる、いわば変形菌本来の姿といえるかもしれない。

変形体においては、プランクトンのアメーバと同じく粘菌は餌を求めて活発に動き回る。幅広く触手を伸ばすように拡散して、一部が餌を探知すると他の部位も一斉にその場所へ集まり、食事を行う。

部位ごとに器官が分かれている訳ではなく、ただ一種類の細胞が集まって接合し、アメーバ状になっているだけのようだ。

★子実体

やがて変形体が成熟すると、この形態に移る。

これはいわばキノコのような形(図参照)をしており、上の球体部分には孢子が詰まっている。

野外で粘菌が見つかる時はこの状態のことが多い。…と言うよりむしろ、変形体はどの種も似たような外見をしており、子実体の状態でないと種類の区別がつかないらしい。

中には美しい色形をしているものも多く、「森の珊瑚」などと言われることもある。



図：クモノスホコリの子実体

★孢子

子実体から孢子が放出された状態。

こうして空気中を飛散し、環境のよい場所にたどり着くと発芽する。

★粘菌アメーバ

孢子が発芽するこの形態になる。これは一匹のアメーバで、この状態から餌を捕り、分裂して増殖し、やがては接合して変形体になる。水の中ではミドリムシのようなべん毛が生え、泳ぎ回る器用さを見せる。

★菌核

寒い所では、変形体が子実体とならずそのまま固まることがある。これは菌核といって、要するに冬眠状態である。気温が上がると、変形体に戻る。

・ どこにいるの？

ここまで読んでもらって、粘菌は森の奥に棲む不思議生物、といったイメ

ージを持たれてしまうかも知れない。だが実は、粘菌はどこにでもいるような、ごくありふれた生き物だ。

森の中に多いのは確かだが、例えば街路樹の茂みや植え込みの中、果てはゴミ捨て場にも粘菌はいる。洗い場のスポンジを放っておいたら子実体が生えてた、という例すらあるらしい。

案外身近な生きものなのだ。

数こそ多けれ、変形体の状態で飼育できるものはモジホコリの一種類しかなく、実験の際にはこの粘菌が使われる。

・変形菌の研究価値・・・

変形菌は基本的に無毒であり、逆に言えば研究したからといって薬が作れたりもしない。だが、思わぬ分野で変形菌は活躍している。ロボット、コンピュータの世界だ。プログラムというのは基本的にわずかなミスがあると全てが動かなくなってしまう。そこで、変形菌の持つ「生物らしさ」に学び、より柔軟な対応のできるロボットやコンピュータを作ろうというわけだ。近年では粘菌コンピュータといって、変形菌そのものをコンピュータの一器官として利用する研究も行われているようだ。

~~ダダると色々出てくる~~

しかし変形菌は、たとえ研究価値など無くたって掛け値なしに面白い生態を持った生き物でもある。興味があったら是非調べて、外に出て探してみるといいと思う。

・参考文献

粘菌～驚くべき生命力の謎～ 松本淳 著

図の画像は wikipedia からいただきました。